

## 父活PROJECT 2013 事業報告（4月～12月）

2014. 3. 25 西森 寛

## ●「父活スタイル」（代表の想い）

私たちは「父親」に焦点をあてています。

「父親」として、子ども達の未来に向けて、今の自分が伝えたい、のこしたいことをカタチにする、そして暮らしているまちの「自然」「歴史」「人」とつながり、様々な人のコミュニケーションによる【共創の場】を大切にしていきたいと考えています。

次年度は「遊び」をテーマに、1)「コモンズ」と「遊び」、木や竹などの自然資源を教育資源としてどう活用していくのかについて、2)親子の成長を地域で祝福するギフト、子育てをみんなで支え合うコミュニケーションのあり方について、実践研究および制作していこうと考えています。

## &lt;ビジョン&gt;

教育力ある家庭と地域を創造する

## &lt;ミッション&gt;

乳幼児のいる家族を対象に、お互いに子育ての思いや経験を共有していき、未来の子どもにのこせる伝えられる活動を通して、家族と地域のものがたりを紡いでいきます。

## &lt;父活コンセプト&gt;

Our Lifeを豊かに Your Lifeにふれる～ものがたりある暮らし～  
家族や地域の課題を共有し、クリエイティブな活動を通して、  
未来の子供達がみな豊かに暮らしていける環境づくりに貢献していく。

## &lt;中期的な展望&gt;

1. 1stステージ 実践研究ベースの「父活Project」初期の立ち上げ期
2. 2ndステージ 2013～2015「父活」を確立する。  
法人化及び組織化、事業モデルを確立する。
3. 3rdステージ ～2016 活動拠点を整備する  
伏見区や南区のらくなん進都（高度集積地区）もしくは下京区リサーチパーク内かその周辺に子供や地域のためにつくりたいものを生み出せる拠点を つくる。
4. 4thステージ ～2017 海外へのネットワークを確立する  
海外（アジア時差3時間以内）とのコラボレーションの検討。

- 「ものことば」事業とは、  
自然資源を活用した「もの」づくりによる、  
父親の育児参加のネットワークづくりであり、  
地域の歴史や自然から学び、伝承された技や技術に出会う「こと」で、  
子どもや家族と対話し、絆をカタチにする「ば」をめざしています。  
基本、毎月第4日曜日に開催しています。

日 時：4月29日（日）10時00分～12時00分  
場 所：京エコロジーセンター3階 会議室  
参加者：父親3名、母親2名、他2名  
タイトル「父活発見！ワークショップ」

4月は、過去の参加者や関係者が集まり、2013年度プログラム説明会を開催しました。今年度から事業年度ごとに年間の重点テーマを決めています。

それは、「衣」「食」「住」「遊ぶ」「学び」の5つのテーマから1つを選び、事業年度ごとに、そのテーマに基づくイベントやプログラムを実施していこうと考えています。子どもがいる家庭にとって、この5つは豊かな生活を送るために必要な要素と考えているからです。

今年度の重点テーマ「食」に関して、現時点でのプログラム案を、昨年度のプログラム「木工クラフトと雑談カフェ」をもとに、もっとどうあったらよいか？どうありたいのか？について意見交換を行いました。

ワークショップ参加者からの意見として、概要については、興味・共感をいただきましたが、少しでも乳幼児が参加できるような内容、お父さんだけでなく、お母さんも安心して参加できる方法を検討することが大切ではないかと、主催者側では、なかなか気づけない意見をいただきました。

日 時：5月26日（日）10時00分～12時00分

場 所：京エコロジーセンター3階 会議室

参加者：父親2名、母親0名、他2名

タイトル「ユニバーサルデザイン～使い続けるヒント～」

5月は、京都市みやこユニバーサルデザイン審議会委員である京都市立芸術大学の塚田章教授による、「ユニバーサルデザイン」～使い続けるヒント～として、ものづくりにおけるデザインについてのレクチャー及びハナスバ（※話す場の造語）を開催しました。

父活PROJECTでは、「もの」づくりをコミュニケーションの手段やイベントとしてとらえるだけではなく、「ものことば」という事業名に集約されるように、出会いと学びの場であり、どんな「父親」でもそのプロセスに関わることができ、そこで生まれた「もの」は、コミュニケーションをカタチにしたもの（伝わる）であり、単純なカタチやその組み合わせによりコミュニケーションが生まれ（つながる）、父親としての意味や価値創造する（のこる）プロセスであると考えています。その上で、長く使い続けることができる「もの」を、父親と職人とのコラボレーションでデザインしていきたいと考えています。

そこで、長く使い続けるためのデザインとは何か？を明確にするために、ユニバーサルデザインを題材にしたトークセッションを行いました。

ユニバーサルデザインとは、ある意味できなくなった事をできるようにする、できなかった事ができるようになるということです。単なる視覚的なデザインではなく、製作者の意図やコンセプトを体現し、誰でも誤解なく自然に導ける（アフォードする）ことが必要になります。塚田教授はユニバーサルデザインという概念は、京都で長い歴史の蓄積がある人々の営み、生活文化に内包されているということも話されていました。それが「みやこユニバーサルデザイン」の所以でもあるのですが、単にバリアフリーとしてのプロダクトを考えるのではなく、それを使う人や場を包括的に考えることが大切だということです。

ここで、父活PROJECTにおける「もの」づくりの位置づけを、ユニバーサルデザインのレイヤーを通して見た時に、単に「もの」をつくることを考えるのではなく、参加する父親や家族の関わり方、「もの」を使う場を想定したトータルなプロセスやプログラムデザインが大切だということです。これが「もの」を長く使い続けるヒントになるのです。

日 時：6月23日（日）10時00分～12時00分  
 場 所：京エコロジーセンター3階 リサイクル工房  
 参加者：父親3名、母親1名、他2名  
 タイトル「父活「黑板」Labo」  
 アドバイザー：大工職人（牛平工務店）

6月は、「もの」づくりプログラムを開催しました。「黑板」は親子や家族とのコミュニケーションの道具になります。ただ黑板をつくるのではなく、もう少しその黑板を使う場や状況に注目しました。つまり、自由に組み合わせてカタチをつくりあげる遊びの要素も取り入れて、「○」をベースにしたデザインの黑板です。そこで、この「黑板」を実際に試作する場（Labo）としました。試行錯誤するなか、その楽しさを実感できると考えました。

当日は、「木工ひろば」を主催され、地域でも活躍されている大工職人にアドバイザー参加していただきました。2時間という短時間で、木工を経験するのは難しいことですが、職人とのコラボレーションにより、参加者がどこまでを当日体験し、事前にどこまでは準備する必要があるのかを決めることで、このプログラムが実現できました。

### 【当日の流れ】

まずは、チェックイン、自己紹介（呼ばれたい名前、父親（母親歴）、子ども（妻）の自慢、参加した動機をそれぞれ紙に記入し発表）から普段の子育てについてお互いに共有します。

そして、黑板づくりです。ものづくりの中では、黙々と作業をするのではなく、作業中でもスタッフによる積極的な声かけや、コーヒブレイクを入れ、参加者でも話しやすい雰囲気づくりに努めました。最終的に、「○」の形状を活かした、吹き出し型や、動物型とできあがりしました。

最後に、チェックアウトです。本日の感想を黑板に記入し、お互いに共有して終了しました。

schedule		a. 黑板部品（円形）	磁石（釘）
		b. 吹き出し部品（端材）	c. 台座
9:30	Check-in		
9:45	研磨 30min (a)		
10:25	切る 10min (b)	10:20	塗り①+乾燥 (a) 5+25min
10:35	研磨 30min (b・c)		
11:05	穴あけ、接着 10min(a・b)	10:50	塗り②+乾燥 (a) 5+25min
11:15	Coffee break		
11:30	Check-out		
11:40	掃除・片付け		
12:00			

### 【今後の課題】

1歳児のいるご家族が参加され、始めは父親の姿を母子ともに楽しそうにみていましたが、やはり子ども（幼児）の集中力がもたず、遊び始めてしまうということが明確になりました。会場に関しても、授乳やオムツ替えのスペースをどう確保するか、母親も乳幼児も参加しやすい空間および環境づくりについても検討が必要です。





日 時：7月28日（日）

場 所：父活PROJECT Facebook（ソーシャルネットワーキングサービス）

参加者 父親1名、母親0名

タイトル「あなたのお気に入りの”遊具”（コミュニケーションツール）を教えてください。」

7月は、実際に、その黒板を使ってどのようなコミュニケーションや遊びが考えられるのか？について、Facebookで発表しました。残念ながら参加者からの投稿はありませんでしたが、今後も引き続き拡げて事例※を集めていこうと思います。地域の参加者には、メールやパソコンは日常的に使わない人もいるため、連絡方法やその発信方法についても対策が必要と思っています。

ICTを活用したコミュニケーションには、両面がありますが、少なくともこのような技術をどう使っていくのか？ともに学び、考えていく場づくりも必要だと考えています。

※他事例として、10月の食物アレルギーサポートデスク開設記念イベントでの黒板にやりたいことや願いのメッセージを描き発信していく取組がある。（後述参照）

日 時：8月25日（日）10時00分～12時00分

場 所：稲荷の家 ほっこり 2階

参加者 父親3名、母親0名、他1名

タイトル「コミュニケーションをカタチにするヒント」

8月は、開催場所を地域で普段から乳幼児を受け入れており、乳幼児が安心して遊ぶことのできるような空間に変えて、「コミュニケーションをカタチにするアイデアのヒント」を開催しました。ものづくりではなく、学びや対話という「こと・ば」のプログラムです。参加者は、地域福祉団体の職員、伏見区のまちづくりアドバイザーとゲストとスタッフの計5名の参加となりました。

まずは、アイデアをカタチにするという企業コンセプトで、ロゴ制作事業やビジネスプロデュース事業に取り組んでいる企画法人スズハシの大橋さんに、アイデアについて、アイデアを考える際に大切な視点や思考について、Skypeを使い、トークセッションを行いました。ここでは、情報通信技術（ICT）機器を活用しての遠隔地での学びやコ



ミュニケーションについても検証してみました。アイデアを出すには、何か特別なスキルや経験が必要ということではなく、普段から感じる不便や不満、もっとうあればということをつきかけに考えてみるとそれがアイデアにつながるという内容の話がありました。

次に地域での具体的な取組について考えてみます。これはお互いに経験を共有することで新たな気づきや発見につなげようというねらいです。伏見区の藤城学区でPTAや自治会の中心人物として活躍されているお父さんにゲスト参加していただき、地域の祭りを通して、父親として地域の活動に参加する意義や楽しさについての事例紹介を行いました。その後のハナスバ※では、ベビーカーを通したコミュニケーションについての事例を題材にしながら、楽しみながら地域や社会に貢献でき、どのような取組ができるか？のトークセッションを行いました。

※ハナスバは、話す場の造語です。父親だけでなく、様々な関係者が場に集まり交流や対話をするトークセッションの場のことです。

この5・6・7・8月は「もの」づくりと親子と家族のコミュニケーションを考える準備段階です。そして、今年度の重点テーマである「食」、10月と11月に実施する「木の食器づくり」につながります。「食」は親子と家族のコミュニケーションを考える上で、大切な役割を果たすと考えているからです。

日 時：9月29日（日）10時00分～12時00分

場 所：京エコロジーセンター3階 リサイクル工房

参加者 父親2名、母親2名、他0名

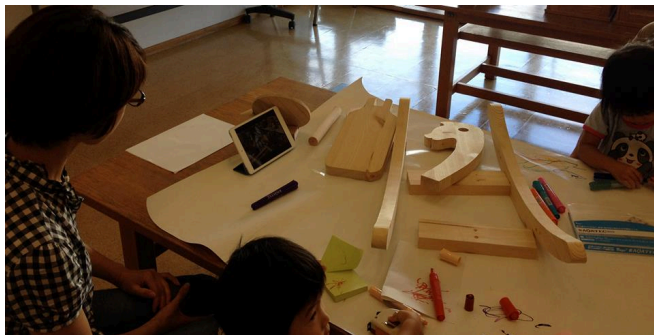
タイトル「お父さんからの贈り物としての「木馬」、子どもと楽しめる遊具としての「黒板」... etc. 木のクラフトについて一緒に話しをしませんか？」

9月は、10・11月に開催する前のイベントとして、職人さんの紹介や、2013年前半に作成した木のおもちゃや黒板を展示、作成途中の木馬を用意して木のクラフトや「もの」づくりのおもしろさや楽しさ、父親の思いと父活PROJECTの思いを共有することをねらいにしています。

### 【当日の流れ】

まずはお互いの自己紹介（アイスブレイク）から始まります。

次に、今までのプログラムについて、様々な世界の木のおもちゃについての紹介です。「黒板」など過去ワークショップでつくったおもちゃや、大阪にある国立民族学博物館の企画展示の資料等を展示し、解説を行いました。



⇒10分間の休憩時に、動画による職人紹介（3分程）を流し、次回の木のおもちゃづくりについてのアナウンスを行いました。

最後に、子どもにつくりたい木のおもちゃやモノについての付箋と模造紙を使用して、子どもに贈りたいモノやつくりたいモノについて、アイデア出しのブレインストーミング（ブレスト）を行います。

ここでは、竹馬・すべり台・積み木・木製おままごとセットなどのおもちゃ、おもちゃ箱（布も使い）・姿見・木のアクセサリ・おそろいの服、小物・ネームプレート（カバン用）・表札など実用的なモノも出てきました。

ブレストの後は、主催者側でワークショップ用に試作中の「木馬」仕上げを仮に組み立てて遊びながら、家族どうしで子育てについてざっくばらんに話して終了しました。

2013年 ものことば 秋 食編 『お父さんが「木の食器」に出会う、3日間。』

1日目：10月14日（祝）16時00分～18時00分

場 所：稲荷の家 ほっこり2階

参加者：父親2名、母親2名、他2名

講 師：家具職人（nandemono）、画家・造形作家（こども芸術教室 Kidz Lab.）

### 【当日の流れ】

まずは、お互いの自己紹介（アイスブレイク）から始まります。そして、家具職人の阿部さんから、秋に実をつける3種類の木（クリ、オニグルミ、ミズナラ）について、木の性質や特徴についての話があり、実際に木を触り、匂いなどの五感を通して、各々の木を選びます。



次に、こども芸術教室 Kidz Lab. の講師より、コラージュを用いた、選んだ木による食器（皿）のコンセプトボードづくりです。自分がどうしてこの木を選んだのか？そしてどんな食器をつくりたいのかをしっかりと伝えることができるような頭の整理です。絵やことば、そしてモールや色紙などの様々な素材を使い、画用紙にそれぞれ描きます。



最後は、各々のつくりたい皿を木の板に写します。具体的なカタチにするのは、職人さんの手に委ねますが、板のカタチから、どんな皿をデザインするのか？職人さんとコミュニケーションをしながらの時間となりました。次回のお披露目を楽しみに待つことにして、1回目が無事終了しました。

今回、木を扱う職人以外に、「こども芸術教室 Kidz Lab.」で子ども向けのアート系のものづくりワークショップ（WS）講座を開催している講師に、お皿のコンセプトボードづくりにご協力をいただきました。アート作品をつくる上でも、作品のコンセプトというのは非常に重要です。父活PROJECTの活動に共感していただいた上で、コンセプトを整理し、伝えるためにコラージュの技法を採用し、普段教室で子ども向けにコラージュをつかったWSを開催している講師を派遣・指導していただきました。



2日目：11月3日（日）13時00分～18時00分

場 所：稲荷の家 ほっこり2階

参加者：父親3名、母親2名、他4名 保育アドバイザー1名※1

講 師：家具職人（nandemono）

### 【当日の流れ】

今回も自己紹介（アイスブレイク）の時間をもうけています。父親（母親）歴何年目か、呼ばれたい名前、どこの出身か、今日の気持ちを一言で表現するという内容です。

2日目の目標は、木のお皿にそれぞれ子どもや、家族につたえたい、のこしたいメッセージを考えて刻むことです。漢字1文字、一文、柄などを研磨しながら考えてみます。

まずは、1日目にデザインしたお皿を紙ヤスリで磨きます。※2

それぞれのお皿を手にとり、お皿の重さやカタチを楽しんでいました。この研磨の時間には、地域ゲスト※3として普段、環境コンサルタントとして仕事をしながら、畑や田んぼで作物やお米を育てている地域のお父さんに参加していただき、ブナ林を始めとした林業の話しや、畑や米作りについての話しをしていただきました。研磨作業をしながら、話しに耳を方向け、話しが盛り上がってくると、磨く音がスローテンポから、ことばのセッションになり、そしてまた、研磨が始まるという、とても和やかな時間となりました。

次に、焼きごてに、考えたメッセージをお皿に焼き付けます。作業の前に、お互いに何を刻むのかを理由も含めて発表しました。

最後は、荏胡麻油（えごまあぶら）の仕上げで、2日目が終了しました。職人さんから自然油塗装後1週間程は自然乾燥させることや、普段のお手入れやメンテナンスについてもレクチャーを受け、各自の家での最終仕上げとなりました。





3日目：11月24日（日）13時00分～19時30分

場 所：稲荷の家 ほっこり2階

参加者：父親2名、母親4名、他1名 保育アドバイザー1名※1

講 師：家具職人（nandemono）、ランチオーナー（協創カフェ natura）

今回は、新たなご家族とリビング京都の記事を見て参加されたクラフト好きのお母さん（年配者）2人が参加されました。

### 【当日の流れ】

まずは、お互いに自己紹介（アイスブレイク）をしてから、今回のスプーンづくりに使用するホオノキ※4について学びます。

次に、どんなカタチのスプーンをつくりたいか、そのスプーンで何を食べたいかを考えてデザインします。各自発表した後、鉛筆で削る部分に印をつけ、クランプを使って固定し、半丸のヤスリで、デザインしたカタチに削ります。



途中、地域ゲスト※3として伏見区の大亀谷でお米屋さんを営む

「お米工房うえだ」さんに参加していただき、今回のカレーに使用する「米」※5について話していただきました。「食育」に積極的であり、安全・安心なこだわりの「食」を担っている地域店舗との接点をもつことは、父親の「食」に対する考え方や、地域でのコミュニケーションも変わると考えているからです。単に産地やお米について分かるということよりも、地域でこだわりの「食」を扱う人と気軽に話すことのできる関係をもてるということが、まずは大切だと考えています。

ものづくりをしながら、話したり、聞いたりというマルチタスクはなかなか難しそうに感じますが、印象的なことばや、これはという内容を忘れないようにする回路が働くようです。職人さんに削り位置や方向をサポートしてもらいながら、仕上げの油磨きが終わると、艶のあるスプーンができあがりました。前回の木のお皿と今回の木のスプーンとで、父活 PROJECT「食」のセットの完成です。

最後は、薬膳カレーによる「楽膳」です。普段大阪でカレーランチを提供している講師による「楽膳」について、講師の調理したオーケンカレーについてのレクチャーです。「楽膳」というのは、単に空腹を満たす食事ではなく、み

んなでゆるく楽しく食事をする薬膳料理のことで、薬膳カレーであるオークンカレーは、カンボジア伝統料理ソムローカレーを、日本人向けにアレンジしたカレーです。「オークン」とはカンボジア語で「ありがとう」の意味、つまりもてなしのカレーとも言えます。ココナッツミルクと豆乳をベースとした身体に優しいまろやかな味付けで、カボチャや大根など旬の食材がたっぷり使いました。今回完成したスプーンを使い、お互いにプログラムの内容を振り返りながらの時間となりました。



- ※1 2日目から会場としても使用している「稲荷の家ほっこり」のご協力で実現しました。
- ※2 2日目から参加者は主催者側でデザインしたお皿です。
- ※3 地域ゲストは、ワークショップ（WS）のなかで、地域との接点をもつきっかけとするというねらいで、3日間のWSテーマに関連する「父親（母親）」を主催者側から招待しました。
- ※4 ホオノキは、特徴的な花を咲かせ、葉も地域によっては、朴葉寿司や朴葉味噌など郷土料理に使われており、殺菌作用が強く、スプーンにはとても最適な木です。
- ※5 分づき米（玄米の皮の削り加減を調整したお米）を使用。

### 【今後の課題】

- ・「からだ」や「五感」を通して感じ、学べる内容のプログラムにするために、木について学びの準備（木育）を講師やスタッフ間で共有する時間の不足をどう補うか。（ex定期的な勉強会の開催など）
- ・単なる体験型のものづくりワークショップにはならないように、「こと・ば」を意識するあまり、短時間で盛りだくさんの内容となってしまった。参加者との振り返りの時間やお互いの子育て感を共有していく時間が設定されたプログラム構成や人員をどう確保するのか。（ex 現場ディレクターの配置など）

## 他団体との連携

団体名：NPO 法人アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと  
 イベント：食物アレルギーサポートデスク開設記念イベント  
 日時：2013年10月20日 10時00分～16時00分  
 会場：京都市勧業館みやこめッセ

ワークショップ名「やりタイ！と写真を撮ろう」

TaiTai というぬいぐるみと鯛のカタチをした黒板や五色の黒板を使い、来場者や関係者から食物アレルギーに関連したメッセージを発信していこうという企画。やりたいことや願いを黒板に書き、撮影した写真をFacebook ページに順次投稿していく。

<今後の課題>

- ・黒板づくりで、塗装前にプライマー塗装が必要、当日子どもと遊べる場のデザインも検討したい。(例えば、黒板パーツのバリエーションを増やすなど)
- ・リアルタイム投稿や会場でのパフォーマンスにおける入念な打合せと準備の問題。

団体名：京都(^ ^)/にこわく  
 イベント：にこわくフェスタ  
 日時：2013年12月7日 14時30分～16時00分  
 会場：同志社大学同窓会館

ワークショップ名「Papa Café #0」

京都産の木材を活用した積み木づくり。お子さんのいるお父さんやお母さんも参加可能な企画。3cm角の木の棒を、鋸で自由なサイズにカットして、紙ヤスリで仕上げていく。

<今後の課題>

- ・木についての知識や参加者からの要望に対する積み木づくりの十分なサポートがなかなかできなかったため、そのスタッフのベースのレベルアップが必要。